

経営者に聞く

自動車産業の大変革期を迎えた当社の対応と、今後の活動について

株式会社パイオラックス 代表取締役社長 島津 幸彦 (当協会参与)



【パイオラックスの歴史・概要】

当社は1933年、「加藤発條製作所」として創業しました。自動車産業、電気通信産業向けの精密金属ばねの生産からスタートし、後に合成樹脂を素材とするファスナー類の開発・製造へと事業を拡大してきました。

企業理念に「弾性を創造するパイオニア」を掲げ、当社の強みである金属と樹脂の両方の素材を扱ったばね製品の開発・製造に取り組み、自動車産業を中心に成長・発展してきました。1995年の株式公開を機に、社名を現在の「株式会社パイオラックス」へ変更し、その後国内外にネットワークを広げ、グループ会社として国内7社、海外10社、グループ全体で約3,500名の体制で事業に取り組んでいます。

【自動車産業の大変革期を迎えて】

今日、自動車産業は100年に一度の大変革期にあります。気候変動への対応やIoT、AI、DXなど新たなキーワードが登場する一方で、感染症の世界的な大流行やロシアによるウクライナ侵攻など、予測もし得なかったリスクが経済や生活に大きな影響を与えています。このような変革期において、今までやっていたことをただ続けていくだけでは、時代に取り残されてしまいます。

そのため当社では、経営の多角化を掲げ、既存の事業領域に留まらない新たな事業を模索してきました。それらの取り組みについてご紹介します。

【医療機器事業への進出と現状】

1999年にそれまで研究開発を続けてきた医療機器事業を分社化し、パイオラックスメディカルデバイスを設立しました。同社では自動車部品の開発・製造で培ってきた弾性技術をベースにした医療機器事業を展開しています。

メインとなる製品は、患者様の体に大きな傷をつけることなく、皮膚に開けた小さな穴や切開から必要な治療を行う「インターベンション治療（低侵襲治療）」に使用される製品です。連結事業全体に占める割合はまだ一割未満ですが、新製品投入のスピードを早め、今後も自動車事業に次ぐ事業の大きな柱に育てていきます。

【e商品開発部発足】

CASE拡大に伴う自動車部品に求められるニーズの進化は想像を超えるスピードで進んでおり、特に電動化への対応は急務になっています。この流れに乗り、受注拡大を強化していくために、2022年4月、CASE対応商品に特化した専門部署として『e商品開発部』を発足しました。当社の製品の中には自動車の電動化により、今後受注の減少や消滅が見込まれる製品があります。このリスクを新たなビジネスチャンスと捉え、当部では営業・開発・生産技術を一体化し、スピード感を持った組織で開発・受注拡大にチャレンジしていきます。

【MIRAI事業部の紹介】

前述の自動車業界の大変革を乗り越えるため、自動車関連に依存しない事業構造を確立する必要があると考えました。今年6月に発表した中期経営計画（2022～2024年度）の重点方策の1つに「自動車、医療に続く第3の事業の発掘」を掲げ、その専担部門として「MIRAI事業部」を2022年4月に新設しました。部門名「MIRAI」には、「未来」に向け、当社の持続的成長をけん引していく新規事業を創出するという意味を込めています。自動車、医療、製造業など当社の既存事業に捉われない新しい分野での事業創出を目指します。今後、トライアンドエラーを繰り返しながら新規事業の創出、成長へのチャレンジを続けていきます。

【終わりに】

当社は来年2023年10月、おかげさまで創業90周年を迎えます。創業以来数々の危機を経りましたが、グループ全社一丸となって切り抜けてまいりました。

今日では、企業活動に加え、世界中で深刻化している多くの社会課題（気候変動、環境汚染、人権問題など）の解決にも積極的に取り組むことが求められています。

当社の社是「至誠・協力・奉仕」に込められた、誠心誠意を尽くし、お客様や社会のために協力を惜しまないという経営精神を以って、今後もお客様の期待にお応えするとともに、持続可能な社会の達成に貢献し、来たる創業100周年を目指して企業活動を進めてまいります。